

目指す学校像	文武不岐の伝統精神のもと、高い知性とたくましい心を持つ生徒を育成し、一人一人の希望を実現するとともに、社会に貢献する人材を輩出することにより地域社会から支持・信頼される学校を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 本校の目標であった国公立大現役合格100名を達成(106名)したが、国公立・私立とも難関大学への合格者は多くはない。 進路意識を早くから高め、自ら進んで学習する姿勢を涵養し、上位校に対応できる学力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の習慣の確立 	①授業の質的向上に努め、自ら課題を見つけ解決する能力を身に付けた生徒を育成する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動部・文化部とも関東大会や全国大会に出場するなど活発に活動し成果をあげた。 今年度は学習とのバランスと節電を考慮し、活動の効率化を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現 	②現役での国公立大学合格者100名、難関私立大学合格者30名、現役進学率70%を達成すると共に、更なる質的向上を目指す。	
<ul style="list-style-type: none"> ・素直な生徒が多く、学校生活は落ち着いている。 一部生徒の服装の乱れや登下校の交通事故防止に注意を払い、安全と規範に対する更なる意識の高揚を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 	③「礼儀、校則、公共心」等を尊重する「心と態度」を身に付けた生徒を育成する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に支障のない範囲での節電に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の活性化 	④生徒会活動、学校行事、部活動、LHR等への積極的な参加を促し、自己管理能力を身に付けた生徒を育成する。 ⑤「生徒が企画する50周年事業」を支援する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・I S Hの充実 	⑥I S Hを通して科学的探究心、活用力を身に付けた生徒を育成し、それらの成果を生かし、S S Hへの更なる発展を目指す。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連事項	評価	次年度への課題
1 学 年	・授業を中心とした学習活動と自学自習の習慣化を図る。	・授業を中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させる。 ・英語や国語の小テスト、数学の章末テスト等の実施で、学習の習慣化と基礎力の定着を図る。未終了の課題は学校で実施させ、学業重視の態度を育成する。 ・「家庭学習の記録」を毎日つけさせ、家庭学習の習慣化を図る。	①② ①② ①②		
	・基本的な生活習慣の確立をめざし、規律正しい学校生活を送れるように努める。	・身だしなみや規範意識の高揚を、学年団の共通理解の下、日常的に指導しきちんとした態度で学校生活を送らせる。 ・遅刻や欠席の生徒には即時に対応し、習慣化しないように指導する。 ・日頃から整理整頓を心がけ、教室内の学習環境を整えさせる。	③ ③ ③		
	・互いに個性を尊重して健全な人間関係の構築を図る。	・生徒会活動、学校行事、部活動などへの積極的な参加を促し、自己啓発能力を高める。 ・HR活動や学校行事を通して、集団への寄与や一体感を体験させ、人間的な力量・能力の向上を図る。	④ ③④		
	・自己実現に向けて2年次の学科コースを的確に選択させる。	・進路意識の啓発のため、キャリア講演会・進路講演会・全日課題HRを実施する。 ・半年間で進路目標を設定させ、目標実現のための進路計画を立てさせる。 ・進路計画のため、講演会や生徒面談を実施し、適切な情報提供と進路指導を行う。	②⑥ ② ②		
2 学 年	・授業を中心とした学習活動と自学自習の習慣化を図る。	・「家庭学習の記録」を毎日つけさせるとともに、それを自己分析させ、予習・授業・復習の学習スタイルを確立させる。 ・英語や国語の小テスト等の実施で学習の習慣化と基礎力の定着を図る。 ・学力分析会を定期的に実施し、各生徒の情報を共有化することで、きめ細やかな指導を行う。 ・学科コースの特徴を生かした授業を行う。 ・効果的な課題、補習、課外を計画・実施し、基礎学力の向上および発展的学習を促す。	①② ①② ①② ①②⑥ ①②⑥		
	・自主的・自律的な生活態度の確立を目指す。	・学年団共通理解の下、身だしなみや規範意識の高揚を学年集会やHR活動等で促す。 ・生徒会活動、学校行事、部活動、HR活動、50周年記念事業等を通して、目標に向かって心をひとつにし困難を乗り越える力強い心の育成を図る。	③ ⑧④⑤		
	・I S Hを通して、理数科新企画の充実を目指す。	・自然科学探究の授業の充実を図り、生徒の探究活動が活発になるよう指導・助言する。 ・I S H事業活動の充実を図る。	⑥ ⑥		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての自覚を持ち、自主的、自律的な生活態度を確立するよう促す。 授業を第一とした予習、授業、復習の学習サイクルの上に、進路実現に向けた学力伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を作成し、実行することにより、自律的な生活・学習の定着を図る。 服装マナー・マニキュア適間を節目に規範意識の高揚を促す。 長期・中期・短期の学習計画を作成し、実行することにより、予習・授業・復習の学習スタイルを確認させる。 小テスト、課題提出等の実施で学習の習慣化と基礎力定着を図る。 読書指導、小論文指導、課外（平常・長期休業）を実施して発展的学習を強化する。 	① ③ ① ② ②	
	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事に積極的に参加し、人間的成長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての責任感を持ちながら、充実した部活動および学校行事ができるように指導助言をする。 学校行事等でクラスの団結心を高め、進路実現に向けてもお互いに良い刺激を与えあえるよう促す。 	④ ④⑤	
	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて、目標・手立てを明確に具体化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間4回以上の面談を実施し、生徒の適性にあった進路指導や生活全般の助言を行う。 「緑高タイム」での進路学習を核として、進路実現に向けての実行方を育てる。 生徒自らの手で自分に必要な進路情報を取捨選択できるように指導する。 	②③ ②③ ②	
	<ul style="list-style-type: none"> 体験的学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 化学及び数学の学習や自然科学探究（課題研究）を通して、問題解決の能力や自主的、創造的な学習態度を育てる。 研究施設の公開講座への積極的参加を促し、生徒が最先端の研究に触れる機会を設ける。 海外研修を通じ、最先端の研究に触れるとともに、国際性を養う。 	①②⑥ ①②⑥ ①②⑥	
理 数 科	<ul style="list-style-type: none"> いばらき版サイエンスハイスクール事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学年と協力してキャリア講演会を実施し、医学や科学技術に対する啓発活動を行う。 理数科の学習指導を通して、科学的探究心、活用力を身に付けた生徒を育成する。さらにその成果を生かし、スーパーサイエンスハイスクール事業へと結びつける。 	②⑥ ①⑥	
	<ul style="list-style-type: none"> 理数科の持続的発展 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の3年間を見据え、また、理数科の特性を生かした魅力的な教育活動を充実させる。 第1学年の生徒には、授業や説明会を通じて、情報や資料を提供したり、面談を行うことで、理数科選択を適切に行えるようにする。 平成24年度から実施される新教育課程に向け、カリキュラム開発を行う。 	①②⑥ ② ①②⑥	
	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学関係の部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 物理・化学・生物・地学・電算等各部の顧問と連携して、各部の活動の充実を図る。 体験教室や発表会の案内を行うとともに、生徒が校外で研究の成果を発表する機会への参加を促す。 	④ ④	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
国 語 科	・ 自学自習の習慣化	・ 授業進度計画に沿って授業を行う。 ・ シラバスによって学習意欲を喚起し、自学自習の習慣化を図る。 ・ 適切な読書案内をすることによって、読書意欲を喚起する。	① ①② ②		
	・ 音読の重視	・ 句読点や抑揚に留意し、各教材文の特性を意識させた音読指導を実施する。	①		
	・ 語彙力の定着	・ 適切な予習・復習の指導をする。 ・ 教材文を読解する上で必要な語彙力を身に付けられる授業を展開する。	② ①		
	・ 古語や古典文法の理解・習得	・ 小テストを実施することによって、基礎力の定着を図る。 ・ 辞書、文法書等の補助教材を活用する授業を展開する。 ・ 各品詞の働きや古語の使われ方を、授業において繰り返し反復練習させる。	①② ① ①		
	・ 漢語や漢文句法の理解・習得	・ 小テストを実施することによって、基礎力の定着を図る。 ・ 代表的な句法の例文を授業において繰り返し取り上げ、定着を図る。	①② ①		
地 歴 公 民 科	・ シラバスを活用した計画的な学習指導	・ シラバスの授業進度計画に沿って授業を行う。 ・ シラバスを活用させることで、生徒に自学自習の習慣を確立できるよう支援する。	① ①		
	・ 基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・ 進学・受験に向け、学習ノート・演習問題集の利用をすすめ、基礎的知識を習得させる。 ・ 課題学習や発表学習などを実施し、生徒の主体性と知識・意欲の深化を図る。 ・ ビデオ・パソコン・プロジェクトなどのIT機器を効果的に利用する。	①② ①② ①②		
	・ 生徒の学習活動の適切な評価	・ 学年・学科・類型に対応した適切な考査問題を作成する。 ・ ノート・レポート提出、発表態度などを含めて総合的な評価を行う。	① ①		
	・ 計画的な学習指導の実施	・ シラバスの授業進度計画に沿って授業を行う。 ・ 授業交換や担当者に代わって授業を行うことにより、授業時間を確保する。	①② ①②		
数 学 科	・ 授業における基礎的内容の理解の徹底	・ 各定期考査の結果を分析し、授業の指導法や学習課題の提供方法について意見の交換を行う。 ・ 章末テストを実施し、各単元の内容の定着を図る。理解の不十分な生徒には追試や補講を行う。 ・ 補助教材を有効に活用し、週末課題を与え、基礎学力の定着を図る。 ・ ドリル演習等を行い、計算力の向上を図る。	①② ①② ①② ①②		
	・ 自主的な学習態度の育成	・ 長期休業前に課題を与え、休業明けに考査を行い、実力の向上を図る。 ・ 課外授業を実施、基礎学力の定着・応用力の向上を図る。	①② ①②		
	・ I S Hの充実	・ 自然科学探究の授業の充実を図る。	②⑥		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
理科	・基礎的内容を踏まえ、基本的内容の理解を徹底する。	・わかりやすい板書と説明により、学習課題を明確化する。 ・定期考査や模擬試験の結果をもとに、理解の程度や弱点を掌握し、学習指導に生かす。 ・理解が不十分な生徒に対しては、補習等を実施する。	① ①② ①②		
	・科学的な態度や能力を養う。	・観察、実験の基本操作を身に付けさせる。 ・科学的に考察する能力を高めるような観察・実験を工夫する。 ・発展的な学習として、探究活動のレポート作成やプレゼンテーション等を取り入れ、理解の深化を図る。	① ① ①④⑥		
	・受験に対応し得る応用力と実践力を強化する。	・センター試験対策演習を十分に実施する。 ・国公立二次試験、私大受験に対応するための応用問題の指導を、早期に適宜指導する。 ・習熟度や難易度別の課外授業を展開し、個に応じた指導ができるよう工夫する。	② ② ①②		
	・理数科における課題研究の発展的継続と、いばらき版サイエンスハイスクール事業の充実を図る。	・課題研究が円滑に実施できる方策を確立する。 ・課題研究が2・3学年同時展開になった場合の問題点を検討し、次年度へ継続・発展できるようにする。 ・いばらき版サイエンススクール事業における実施内容を、他分掌と協力して実施する。 ・平成24年度から先行実施される新学習指導要領理科に基づいた新教育課程(理科)を検討する。	①⑥ ⑥ ⑥ ⑥		
保健体育科	・体力の向上	・体力テストを実施し、自己の体力を認識させ、体力の保持増進に対する意識を高めさせる。 ・運動量の確保に努める。 ・女子生徒の体力の向上を図る。	① ① ①		
	・技能の向上	・各単元において、個に応じた指導を工夫し、技能の修得とスキルの向上を目指す。 ・3年生時に選択授業を実施し、生徒に主体的な活動を実践させることにより生涯体育につなげるようにする。	① ③		
	・健康・安全への取り組み	・日常生活の中で健康に関心と自覚を持ち、運動やスポーツを実践する中で安全面に配慮することに努める。 ・集団行動を通し、公正・協力・責任などの態度を育てる。	① ③		
	・授業時間の確保	・教科内における填補を充実・徹底させ、授業時間の確保に努める。 ・教師間の共通理解のもと規律ある集団行動の確立に努める。	① ③		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
芸術科・美術	・基礎的技能を身に付け発想力を伸ばす。	・作例を示し、感じ取ったこと、自己の考えをもとにし制作する技能を身に付けさせる。	①		
	・芸術に興味・関心をもって取り組む態度を育て、自主的に作品を制作できるようにする。	・作品を制作することにより自己を表現する技術を身に付けさせる。 ・作品の提出期限を守るよう指導する。 ・自主的に作品を作成できるよう支援する。	① ① ③		
	・作品の鑑賞や制作を通して自己を深く見つめる姿勢を培う。	・様々な作例、友人の制作作品を鑑賞することにより、作者の心情や意図、表現の工夫等を学ばせる。 ・個々人の感性を高めるよう指導する。	③		
英語科	・基礎的な内容の理解徹底と応用力、実践力を身に付けさせる。	・予習、復習のプリントを配布し、それをもとに基礎的な内容の理解の徹底と応用問題の解き方を指導する。	②		
	・自学自習の確立を目指し、学年＋1時間の家庭学習の増加を図る。	・1,2年生には単語集を渡し、課題を課すとともに小テストを通してその実施状況や定着度をチェックする。 ・3年には大学受験用の問題集を自宅学習用として渡し、授業や小テストで定着を図る。	① ①		
	・英語がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	・ALTとの授業を通して、「話せる楽しさ」を生徒に感じさせ、自主的に学ぶ力を育成する。	②		
	・指導法や教材についての情報交換と共有化を図る。	・共通理解のもとに指導する。 ・各種研修会に積極的に参加し、そこで得た情報を共有する。	② ②		
家庭科	・生徒の実態に応じた学習指導を実施する。	・研修を深め、生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材・教具を提供する。	①		
	・生活に必要な基本的知識や技術を習得させる。	・生徒個々の進捗状況に応じた指導を行う。 ・施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。	①③ ④		
	・自分の生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	・自らの生活から課題を見出させ、学習したことを生かして解決を図ることができるようにする。	①③④		
情報科	・計画的な学習指導の実施。	・シラバスの授業進捗計画に沿って授業を行う。	①		
	・情報活用の実践力を身に付けさせる。	・生徒に課題の内容やその目的を明確に伝え、課題や目的に合った手段は何かをまず考えさせ、的確に情報を活用できるように指導する。	①		
	・情報の科学的な理解を深める。	・実習だけに偏ることなく、教科書や副教材を用いた座学を実施する。実習で行ったことを理論的に学び、座学で学習したことを実際に実践することにより、確実な知識の定着を図る。 ・頻繁に生徒に質問や発問することにより、生徒が自主的に考え、参加する授業を心掛ける。 ・定期的に副教材を提出させ、また、定期考査を実施することにより、生徒の理解度の確認を行い、理解が不十分な場合には適宜補習を行う。	① ① ①		
	・情報社会に参画する態度を養う。	・情報モラルに関する教材を、生徒の身近で話題になっているものにより、情報社会に参画する態度をより具体的に考えられるようする。	①③		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
教務部	・授業時間の確保	・学校行事の精選と短縮授業の削減を図る。(年度末) ・適切な時間割を編成する。(年度末) ・考査ごとの授業時間を確保できるよう考査等を効果的に実施する。(通年) ・急な変更には係が対応し、完全に授業の振替を実施する。(通年)	①② ①② ①② ①②		
	・授業の質的向上	・公開授業等を設定し、指導方法の工夫・改善を図る。 ・結果がその後の指導に生かせるよう考査等を効果的に実施する。(通年) ・活用しやすいシラバスを作成し、計画的な学習を促す。(年度末) ・円滑な業務遂行のため、職員室等の整理・整頓に努める。(通年)	①② ①② ①② ①②		
	・広報・PRの推進	・魅力的なスクールガイド・ポスター等を作成する。(年度始め) ・各分掌と連携し、各種広報紙(チラシ)を作成する。(通年) ・体験型「学校説明会」を実施する。(夏休み) ・HPの充実に支援する。(通年)	④		
	・適切な教育課程の編成	・普通科、理数科の特色を生かした教育課程の編成を行う。(通年) ・SSH指定に耐えうる特色のある教育課程を研究・編成する。(通年)	①② ①②⑥		
	・記念行事の成功	・「生徒が企画する50周年事業」を支援する。	④⑤		
学習進路指導部	・学力の向上を図るとともに、主体的学習習慣を身に付けさせる。	・授業の質の向上を図るとともに必要に応じて課題を与え、課外等を実施する。 ・家庭での学習時間の増加に努める。 ・学校内外における生徒の学習状況を把握する。 ・生徒の自学自習を援助するため、学習室の平日放課後及び土曜開放等を企画・運営する。	①② ①② ② ①②		
	・進路意識・学習意欲の高揚を図る。	・集会や配付物等で生徒の進路意識の高揚につとめる。 ・ガイダンスにより、生徒の能力や適性等自己理解を深化させる。 ・職業観育成セミナー・キャリア教育講演会により、進路意識・学習意欲を高める。 ・学問観育成セミナー・大学模擬授業等により、進路意識・学習意欲を高める。 ・進路資料・緑進の内容の適切化につとめる。 ・進路情報を適切な時期に発行するよう努める。	② ①② ②⑥ ②⑥ ② ②		
	・進路希望の実現をめざし、進路実績の向上を図る。	・3学年で飛躍するための基礎学力が1・2学年で最低限定着するよう、各教科、各学年とともに連携し、学力の定着に寄与する。 ・最後の詰め(受験先の選択、生徒の精神的な強さの維持等)に3年関係者とともに努める。 ・センター試験後、受験先の検討会等3年担任等の補助をする。	① ② ②		
	・職員への進路(進学)データの提供と各教科との連携を図る。	・生徒実態調査(アンケート)を分析し提供する。 ・塾(高校入試のための)・予備校通学状況等を調査し、生徒の実状の把握につとめる。 ・見やすい模試データを作成し、各教科の弱点発見に寄与する。 ・様々なデータを収集し分析し、全職員の認識の共有化に資する。	② ② ①② ①②		

【自己評価の基準】 A：よく達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分であった D：不十分であった

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
進路指導部	・来客への対応と生徒の進路相談に適切に対処する。	・来客との対応を誠実丁寧にする。 ・親身になって生徒の進路相談にあたり、必要なデータの提供に努める。 ・生徒が気軽に進路室を利用できるような環境の形成に努める。	② ② ②		
生徒指導部	・「制服をきちんと着る」 ・「校則と交通ルールを守る」 継続実施。	・服装マナーアップ週間の立哨指導でスカートの極端に短い生徒、ズボンの腰パン生徒を指導する。 ・交通安全指導、ロングホームルームで自転車乗車のマナーを指導する。	③ ③		
	・教職員の生徒指導に対する意識の統一を図る。	・服装指導をその場で適宜指導する。	③		
特別活動部	・行事への参加意識の高揚と職員の協働体制の構築。	・行事の企画・運営に自主的・主体的に参加させるために、生徒一人ひとりが一役を担えるよう職員の協働体制の構築を図る。特に本年度は職員の共通理解を図り、「生徒が企画する50周年事業」を支援する。 ・生徒会本部役員の上候補者が確保できるように、リーダー研修会・合同PRを企画運営するなど体験的学習の場を設ける。また、教科との連携を大切にする。 ・特別活動部員の情報の共有化を図り、他の教職員に対して、積極的に情報を公開し、協力要請を行なう。	④⑤ ④⑤ ④⑤		
	・部所属の生徒に対する自学自習の習慣の確立。	・学習時間の確保と節電のために、時間の切り替え指導の徹底を顧問会議等において確認する。部室などの使用時間厳守を徹底する。また、学年との意思疎通を図る。 ・部顧問は効果的な練習方法と練習時間の短縮に努める。	① ①		
	・「緑高祭」の質の向上。	・緑高祭の全学年参加における質の向上に向け、実行委員会の活動を充実させ、生徒の参加意識の高揚を図る。また、震災後という現状を鑑み、実施の方法と内容を工夫する。 ・イベント力(企画力・運営力)の向上のために、リーダー研修会を実施したり、体験的学習を通して、リーダーの育成を図る。	④ ④		
	・文化部加入率の向上。	・文化部の運営を顧問のみならず、学校全体で支援し、緑高祭等で発表・展示等の機会をできるだけ確保する。	④		
保健厚生部	・健康相談の充実と健康教育の啓蒙。	・保健室来室者・担任等の情報により精神的ケアの必要な生徒を把握し的確な指導をする ・教育相談部のスクールカウンセラー制度との連携を密にし、チーム支援をしていく。 ・保健委員会と連携し、学年別にテーマを決め「健康講話」を実施する。	③ ③ ③		
	・学習環境の整備。	・清掃監督の教職員や整美委員会等と連携し、美化意識の高揚を図る。 ・授業担当者・事務と連携し、エアコン使用時の換気・設定温度の遵守について生徒の意識向上を図る。	④ ④		
	・奨学生への応募業務の円滑な運営。	・迅速に情報を提供し、応募生徒の指導・面接等を計画的に行う。			
	・購買部の円滑な運営。	・生徒のニーズに配慮した運営と日々の収支を明細に記録する。			

【自己評価の基準】 A：よく達成できた B：おおむね達成できた C：やや不十分であった D：不十分であった

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
図書部	・授業、発展的学習、進路達成に活用できる図書を更に充実させる。	・各教科、各分掌等からの推薦図書を揃える。 ・図書購入希望調査を積極的に推進する。 ・学習進路指導部と連携し、進路関係の図書コーナーを充実する。 ・閲覧しやすい推薦本コーナーを充実する。	① ① ① ①		
	・生徒の図書館利用を促進する。	・蔵書O A化作業を更に推進する。 ・学年、教科と連携し、読書の重要性を強調する。 ・本館に図書コーナーを設け、利便性をはかる。	①② ①② ①②		
	・図書委員会の活動を活発にする。	・各HRで図書館利用促進活動、並びに推薦図書紹介を積極的に行う。 ・図書館ニュース、図書館報編集を自主的積極的に取り組ませる。 ・「緑高祭」に参加する。	④ ④ ④		
	・視聴覚教材を充実させる。	・各教科、各分掌等からの推薦教材を揃える。 ・図書室に開架することで利用促進につなげる。	① ①		
渉外部	・PTA総会や公開授業への参加率が昨年度を上回るように工夫する。	・学級懇談会の充実を図る。 ・公開授業の魅力ある内容を、事前に保護者に周知徹底する。	① ①		
	・PTA講演会・公開授業への参加率が昨年度を上回るように工夫する。	・講演会に魅力ある講師を招聘するなど、魅力ある行事を企画する。 ・公開授業の内容を、普通の授業の延長とだけ考えず、特別企画の公開授業なども模索していく。	① ①		
	・PTA学年委員会の活性化を図る。	・各学年委員会がPTA会員のネットワークづくりの中心となるような活動を推進していけるようサポートしていく。手始めに、PTAの緑高祭参加は、各学年単位で企画・運営してもらう方向で進める			
	・緑高祭への保護者の積極的参加を呼びかける。	・緑高祭の内容を保護者にとっても魅力あるものに工夫し、PTAとしての参加内容を、運営委員会・各学年委員会中心に企画する。			
教育相談部	・早めの問題発見と能動的カウンセリングを行う。	・「月別欠席調査」を毎月の定例部会で集計し、問題を抱える生徒についての早期発見と部内の共通理解および学年との連携を促進する。 ・集計結果から、欠席の多い生徒に対してカウンセリングを実施する。	①③④ ①③④		
	・教育相談研修会を実施し教職員の理解と技能を高める。	・本校の生徒の抱える問題に、深い理解と経験を持つ人を講師として人選する。 ・本校職員対象のアンケート下を実施して意識を高める。	①③④ ①③④		
	・スクールカウンセリング充実をはかる。	・スクールカウンセラーの継続的なカウンセリングを実現する。 ・スクールカウンセラーと教育相談部員、クラス担任などとの連携をはかって行く。	①③④ ①③④		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
情報部	<ul style="list-style-type: none"> LANをより充実したものにすべく対応し、不具合への迅速な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、校内サーバー・PC・プリンター等の設定変更を行う。また年2回程度の業者による点検整備を依頼する。 情報委員会の生徒による教室PCの管理をおこなう。 教職員と生徒へのセキュリティ情報の迅速な提供と注意喚起を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① 		
	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトの充実を図り教育活動に関する情報の積極的開示を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブページの内容の更新を適切に行う。 各分掌等からのサイト内容の変更依頼に対し、迅速に対応する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 学校代表メールへの迅速応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校代表メールの受信を頻繁に行い、関係教職員への転送や分掌への提供を迅速に行う。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 教育情報ネットワークを全員が快適に利用できる態勢を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員向けのネットワーク活用のための情報提供を行う。必要な場合は研修を実施する。 生徒へポータルユーザーアカウント・メールアドレスを必要に応じ配付をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ① 		
事務部	<ul style="list-style-type: none"> 予算の早期執行と教育環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の早期かつ効果的な執行に努め、早めに教育環境の充実を図る。また、公金である認識を持ち、コスト意識に基づいた事務執行に努める。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に係る破損箇所の早期復旧に努める。その他定期的に校内巡視を行い、不具合等の早期発見に努めるとともに迅速な対応により設備施設の維持管理に努める。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で省エネルギー（節電・節水等）に取り組めるよう全職員に対し意志徹底を図り、生徒へも省エネの推進を指導する。また電力供給不足が続く中、具体的な節電目標を定め、省エネを推進する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 不審者への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 朝晩の門扉の確実な開閉実施及び日中の東側通用門の門扉を閉めることにより、不審者が立ち入りにくい環境を作る。また、来校者には必ず声を掛ける等、学校全体として不審者対策に取り組めるよう全職員に働きかける。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 窓口等での適切な接遇 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の窓口として対応しているという自覚を持ち、来校者や電話等での対応をより適切に行うよう心がける。 			